

保育人材確保のための 『魅力ある職場づくり』に向けて

平成28年11月

厚生労働省

保育分野における人材確保の必要性

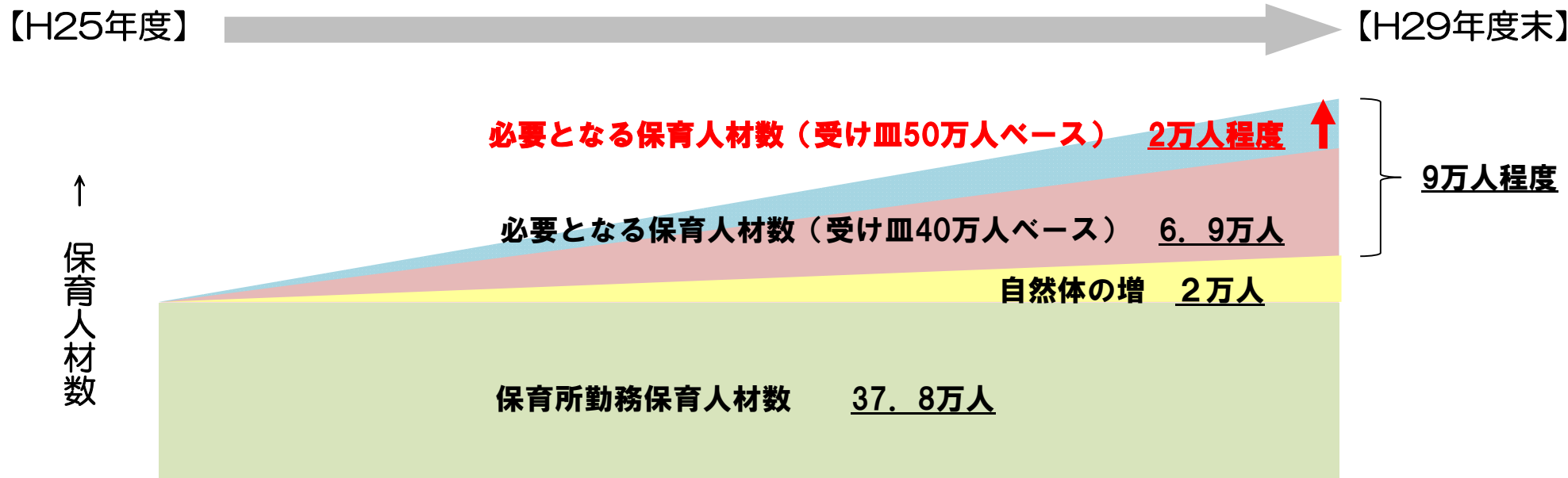
保育分野（1. 現状と課題）

人材不足の状況

平成29年度末までに国全体として新たに確保が必要となる保育人材数 9万人程度

◆「待機児童解消加速化プラン」の確実な実施に向け、その担い手である保育人材確保のための方策を図る。

◆平成29年度末までに国全体として新たに確保が必要となる保育人材数(約9万人)の確保を目指す。



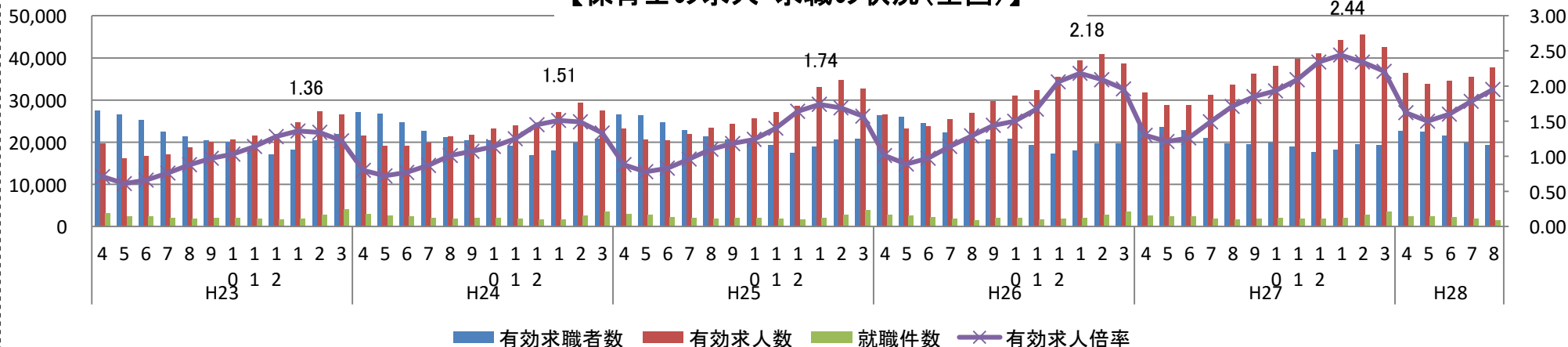
保育分野における人材不足の現状①

保育分野（1. 現状と課題）

- 保育士の有効求人倍率は、1月頃にピークを迎え、平成28年1月では全国平均で2.44倍となっています。
- 平成27年度の新規求人倍率を見ると、9割の都道府県において1倍を超えており、人手不足感が広がっています。

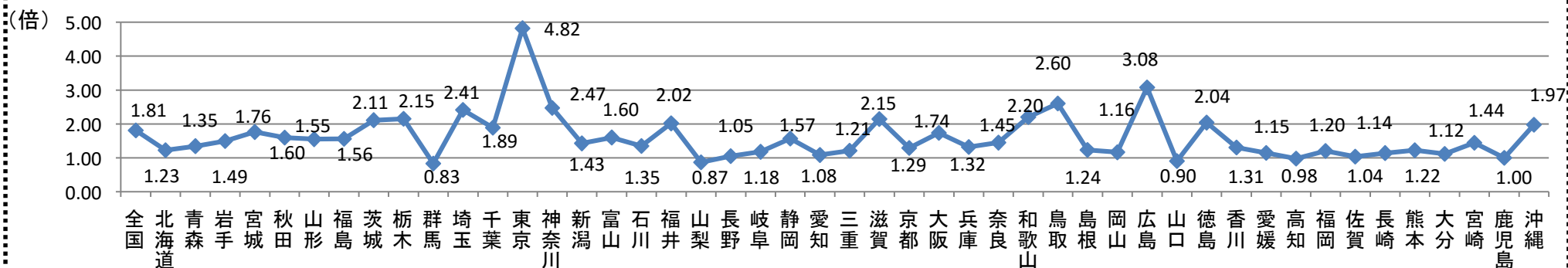
全国の状況

【保育士の求人・求職の状況(全国)】



都道府県別県の状況

【平成27年度の新規求人倍率(都道府県別)】



【出典】厚生労働省「職業安定業務統計」

※新規求人倍率＝新規求人数／新規求職申込件数

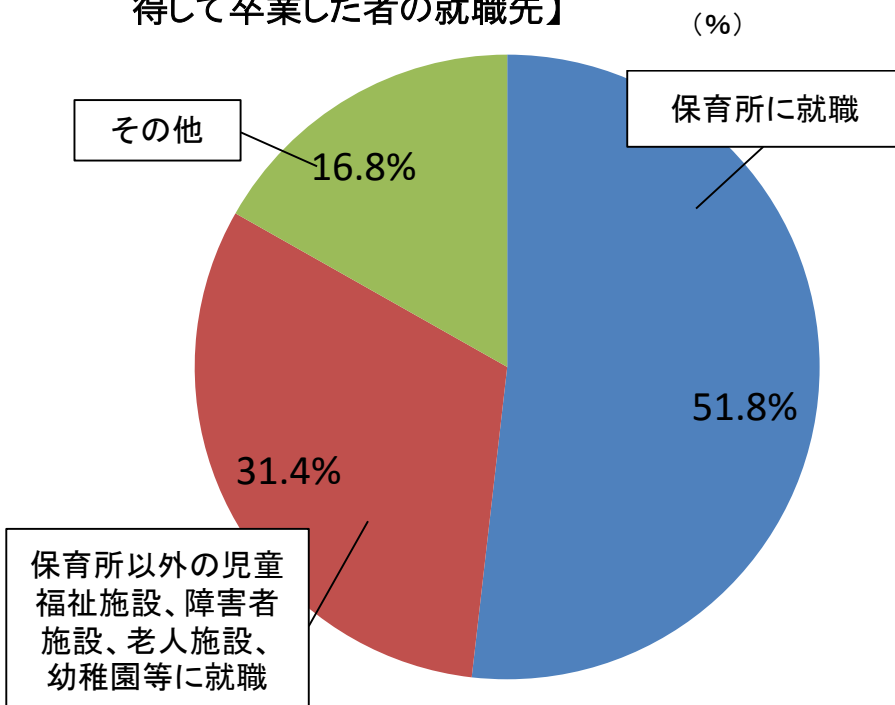
保育分野における人材不足の現状②

保育分野（1. 現状と課題）

- 指定保育士養成施設卒業者のうち、約半数は保育所に就職していません。
- 保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者のうち、半数以上が勤務年数5年未満であり、早期離職の傾向も顕著です。

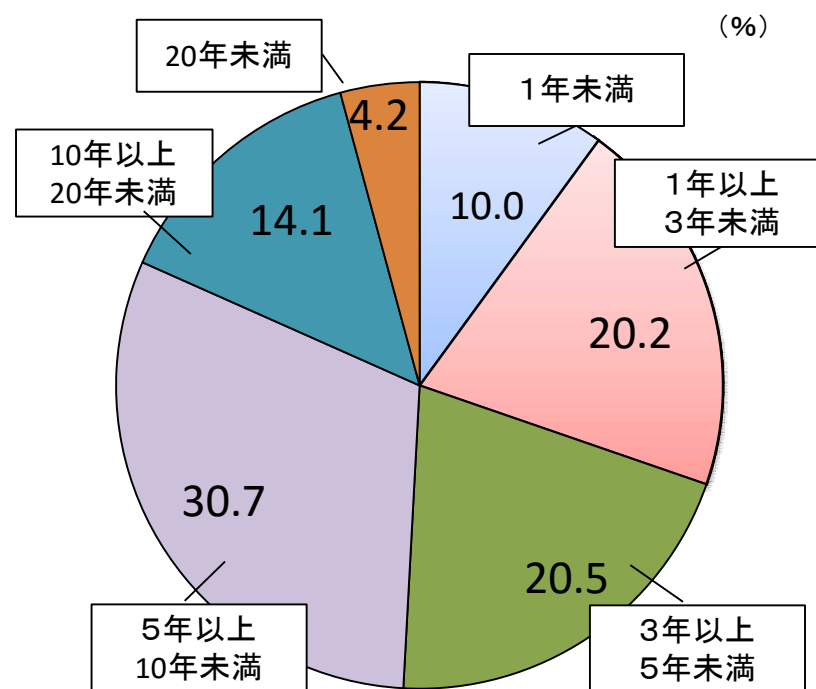
保育士資格を有する求職者の状況

【保育士養成施設で保育士資格を取得して卒業した者の就職先】



【出典】H26年度末厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課調べ

【保育士としての勤務年数】



注)対象は、保育資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者のうち、保育士としての勤務経験があるもの

【出典】厚生労働省職業安定局「保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者に対する意識調査」(平成25年)

保育分野における人材不足の原因・理由①

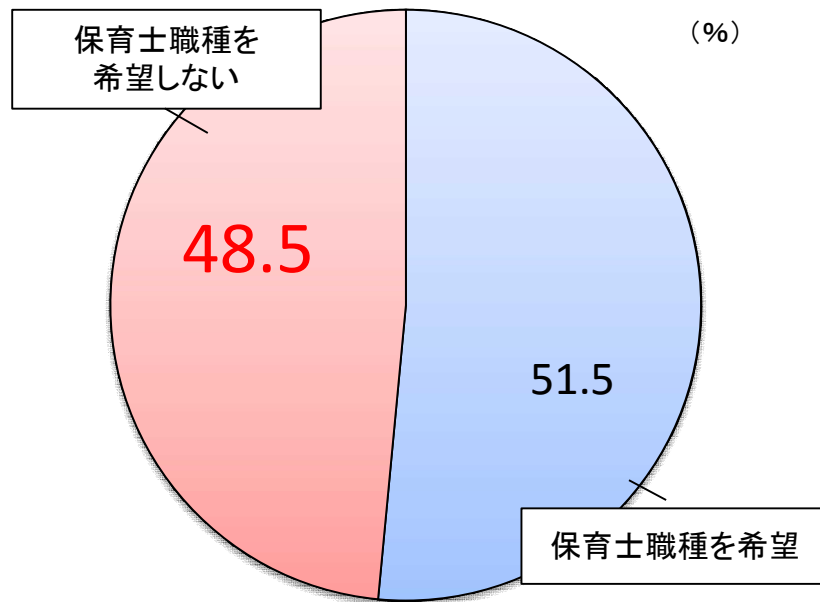
保育分野（1. 現状と課題）

就業希望者が増えない理由

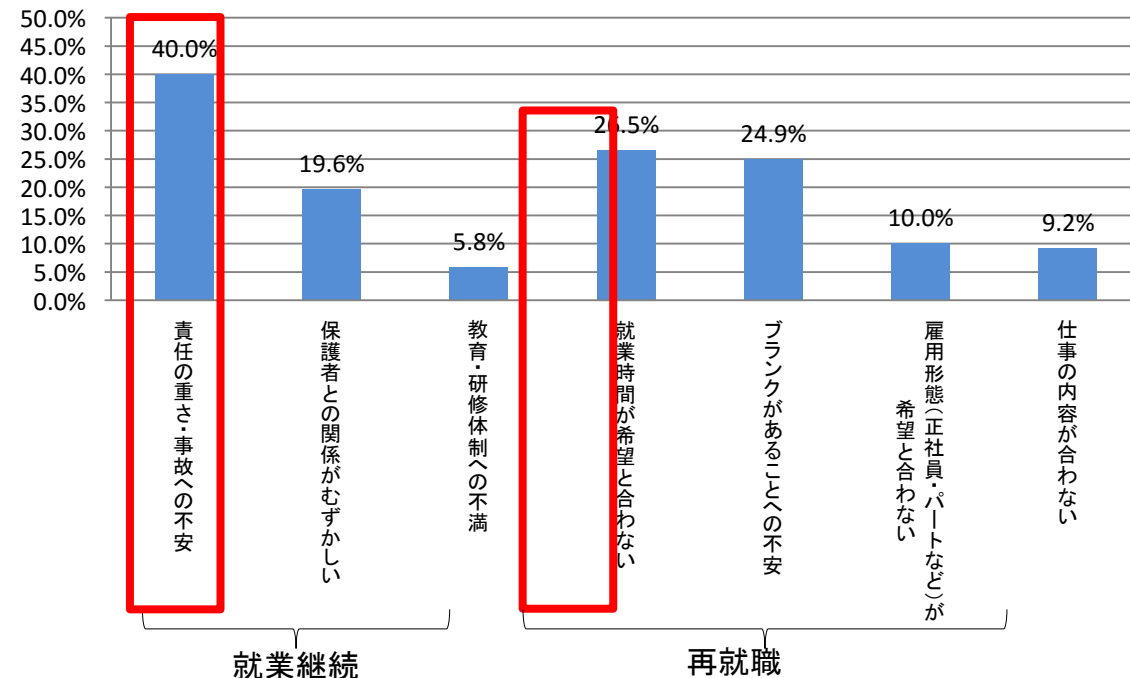
- 保育士資格を有するハローワーク求職者のうち約半数は保育士としての就業を希望していません。
- 保育士としての就業を希望しない理由で、就業継続に関する項目としては「責任の重さ・事故への不安」が最も多く、再就職に関する項目としては「就業時間が希望と合わない」が最も多くなっています。

→ 就業者を拡大するためには、就業に対する不安を取り除くサポート体制や、家庭の状況などにより就業時間へ配慮等が必要。

【保育士資格保有求職者における
保育士職種の就業を希望する割合】



【保育士としての就業を希望しない理由】(複数回答)



保育分野における人材不足の原因・理由②

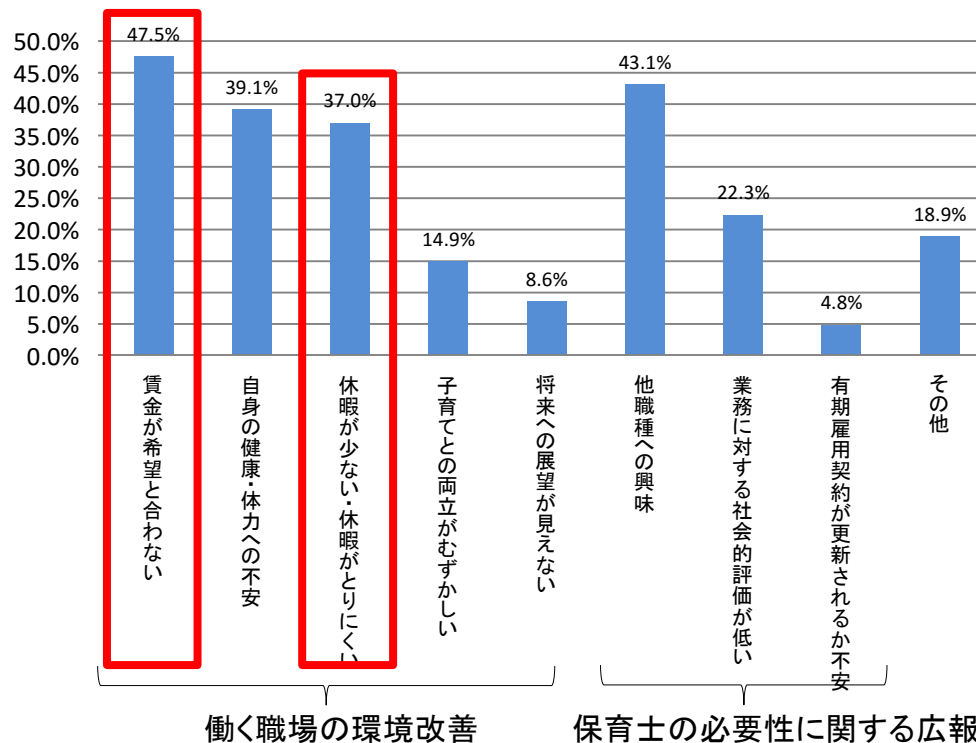
保育分野（1. 現状と課題）

就業希望者が増えない理由

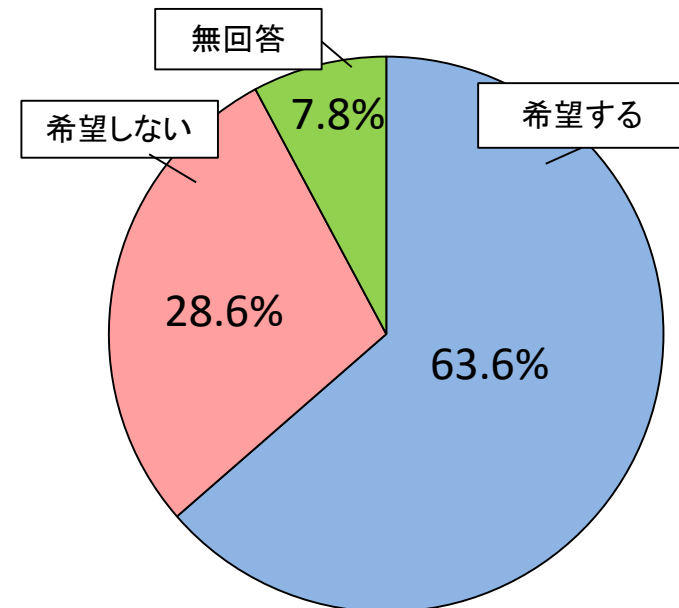
- 保育士としての就業を希望しない理由で、働く職場の環境改善に関する項目としては、「賃金が希望と合わない」が最も多く、「休暇が少ない・休暇がとりにくい」ことなどが挙げられています。
- 保育士としての就業を希望しない理由が解消した場合、63.6%の者が保育士を希望しています。

➡ 就業者を拡大するためには、処遇改善や勤務環境の改善に取り組み、職場としての魅力を高めることが必要。

【保育士としての就業を希望しない理由】（複数回答）



【就業を希望しない理由が解消した場合の保育士への就業希望】



（注）回答者1人当たりの希望しない理由選択数が3.7と多岐に渡っていることに留意が必要。